

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、1.40(95例)で、先週の1.49(101例)からやや減少しています。
- ・ 百日咳の報告が、1例(女性、6～11ヶ月)あり、4週続けて報告があります。本年の累積報告数は、5例で、年齢階級別の内訳は、6～11ヶ月及び1歳が各2例、8歳が1例です。全国では、今週(0.05)が最も多くなっており、累積報告数の年齢階級別割合をみると、20歳以上の割合が、40.4%で最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

定点当たり報告数は7.80で、過去5年平均値(6.77)を上回っており、本年で最も多くなっています。

詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

ありません。

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1.40	95
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.80	320
	② 水痘	0.78	32
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	26
	④ 突発性発しん	0.56	23
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
インフルエンザウイルスAH3型(1)	インフルエンザ(第52週)	NP

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

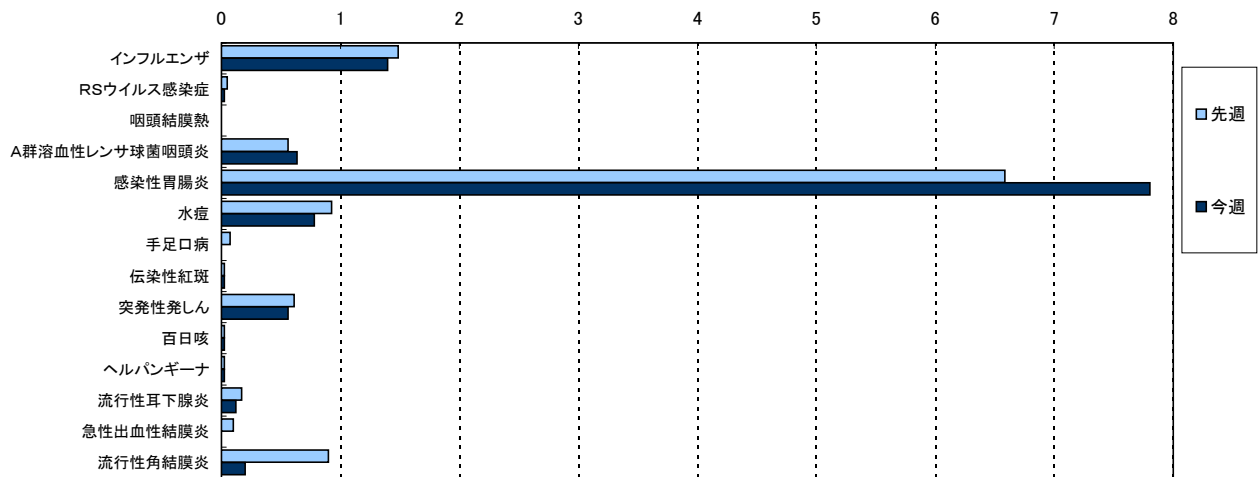
(注) 京都市のデータは、平成21年4月24日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

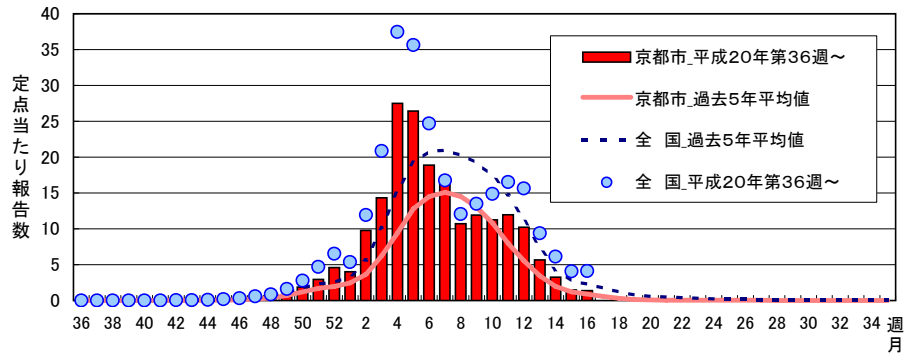
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第16週)と先週(第15週)の定点当たり報告数の比較



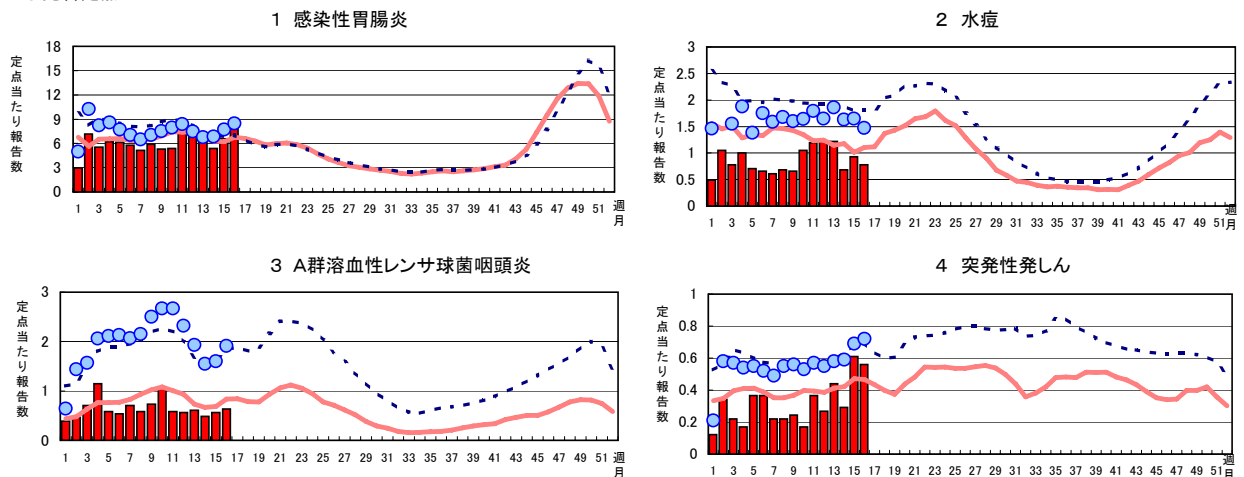
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第12週	696
第13週	385
第14週	232
第15週	101
第16週	95
累積報告数 (第36週以降)	13351

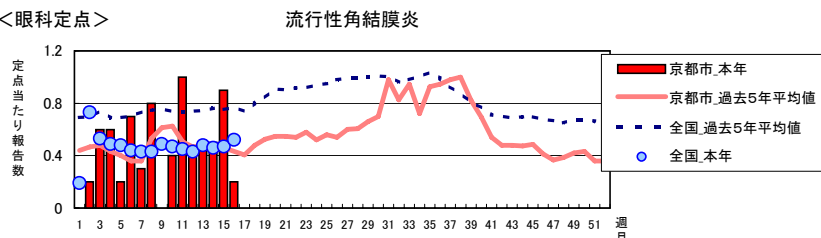


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



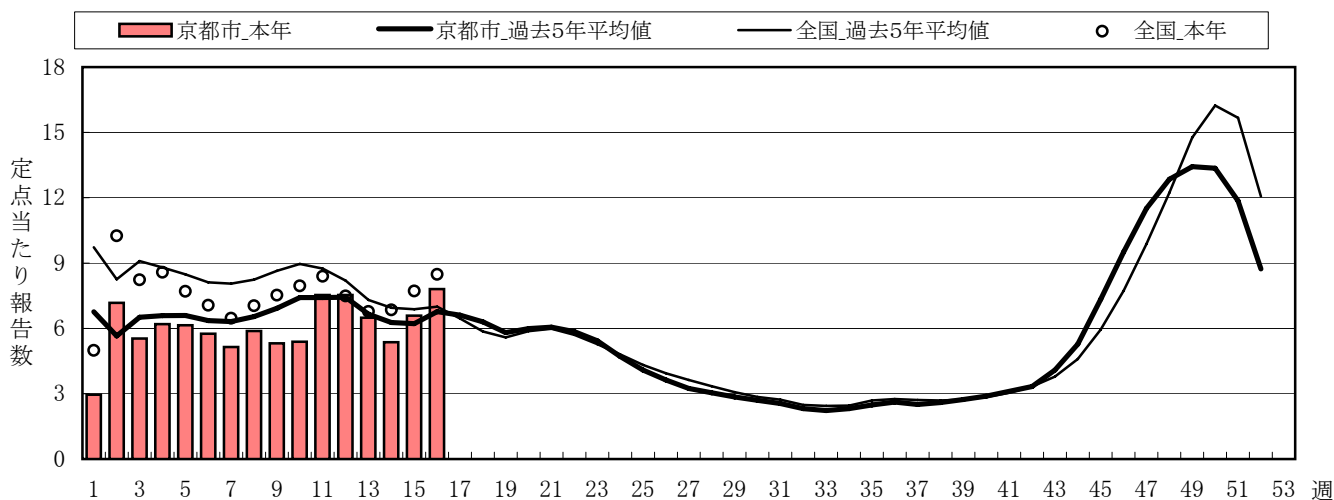
今週(第16週)のトピックス: <感染性胃腸炎>

定点当たり報告数は7.80で、過去5年平均値(6.77)を上回っており、本年度で最も多くなっています。また、全国では、第14週から増加傾向を示しています。

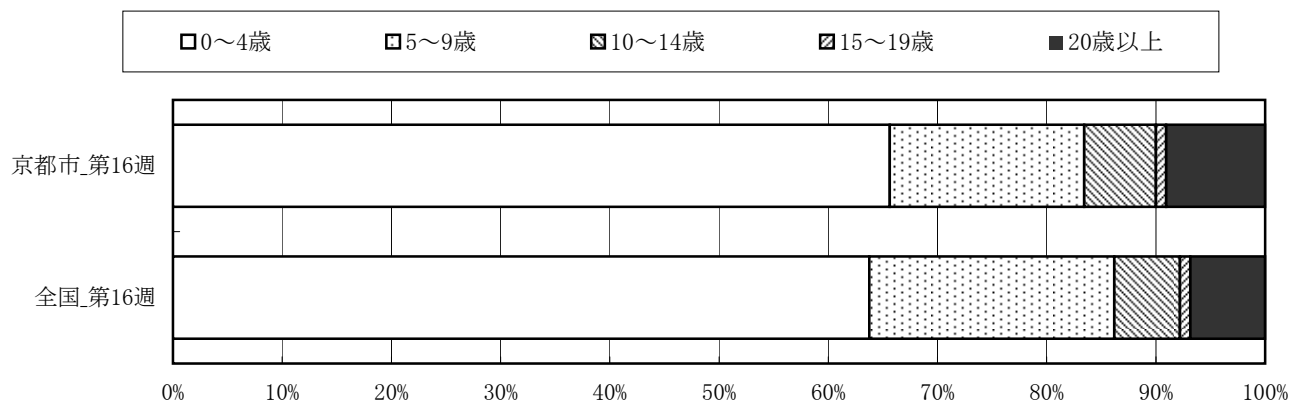
年齢階級別にみると、本市及び全国とも、0～4歳が最も多く、次いで5～9歳となっています。

行政区別定点当たり報告数をみると、東山区が最も多く、次いで西京区となっています。また、過去5年平均値を超えているのは、11行政区中7行政区です。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別報告数



行政区別報告数

